

第 13 期水俣学講義
「水俣」のテレビドキュメンタリー・アーカイブ
2014 年 12 月 4 日
小林直毅
(法政大学社会学部)

アーカイブ：公文書保管所、古文書記録保管所、記憶・情報の集積。

アーカイブにおける文書の三つの段階 (M. B. ベルティニーニ 2008=2012: 27-29)

1. 現用文書：取扱い中の業務にかかわる文書。
2. 非現用文書：比較や研究のために請求される、すでに一旦終結した業務にかかわる文書。
3. 史料：歴史的観点から重要であると判断され、価値を与えられた文書。
これは「文書のライフサイクル」とよばれ、アーカイブにおける文書の誕生、発展、進化を意味する。

「流れ」としてのテレビ

無数の番組の「流れ」、無数の出来事の「流れ」、無数の映像と音声の「流れ」を作り出すメディアであり、技術である (R. Williams 1975: 89, 99)。

このような「流れ」は、テレビが作り出す時間である。

➤時間メディアとしてのテレビ

テレビ・アーカイブ：映像、音声、言語などの記号によって成り立つテレビ番組の保管所。

無数の番組、無数の出来事、無数の記号が「流れ」のなかに、特定の番組、特定の出来事、特定の映像や音声などの記号が、散在している。

テレビ・アーカイブはテレビが作り出す「流れ」としての時間を保存する。

そうすることによって、特定の番組、特定の出来事、特定の映像や音声などの記号を召喚し、新たな「流れ」としての時間の再構成を可能にする技術にしてメディアである。

テレビ・アーカイブにおいても、「テレビ番組のライフサイクル」が可能になる。

テレビに固有の方法による出来事の記録の集積体であると同時に、テレビに固有の方法による出来事の経験とその記憶の集積体である。

「水俣」の記録と記憶としてのテレビドキュメンタリー

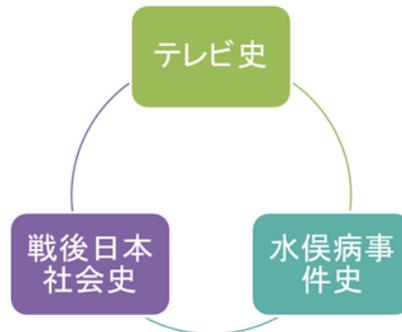
「視聴者はテレビという制度に彼／彼女の眼差しを委託している」(Ellis 1982: 170)。

視聴者の眼差しが委託されたテレビは、「視聴者の眼差しの代理以上のものとなるように機能し、視聴者が世界を見ることを可能になるように機能する」(Abercrombie 1996: 11)。

高度経済成長という戦後日本の経済発展がテレビの普及をもたらし、また、テレビを普及させるような消費の拡大が高度経済成長を促進した。

戦後日本の経済発展と水俣病事件との間には抜き差しならない関係が成立している。

水俣病事件史には、高度経済成長の歴史だけではなく、それとともに急速に普及し、制度的な拡充を遂げた日本のテレビ放送の歴史もまた重なっている。



これこそが、テレビが描き、記録してきた「水俣」と、人びとがテレビを見ることによって経験し、記憶してきた「水俣」を決定的に特徴づけている。

文献

- M. B. ベルティニーニ (2008=2012) 『アーカイブとは何か』湯上良訳、法政大学出版局。
(M. B. Bertini, *Che cos'è un archivio*, Carocci editore S.p.A.)
- Abercrombie, N. (1996) *Television and Society*, Polity Press.
- Ellis, J. (1982) *Visible Fictions*, Routledge.
- Williams, R. (1975) *Television: Technology and cultural form*, (Second edition published 1990) Routledge.